

はじめに

本大学院は、授業効果の向上を目指し、各授業の意義と位置付けを諸君に明示すべく、授業計画（シラバス）を刊行しています。このシラバスは、それぞれの授業科目がどのような目的で、どのような計画で講義されるかを示し、さらに、薬学教育でどのような位置付けにあるかが理解できるように説明されています。また、授業についての質問を受け付ける先生の時間帯（オフィスアワー）や成績の評価方法も示してあります。よく読んで各自の学習に、このシラバスを大いに活用されることを期待します。

本学大学院の教育目標は、「高度薬学専門職業人の育成」であり、具体的には「薬学領域において自立して創造的研究活動を遂行するために必要な研究能力とその基礎となる豊かな学識と優れた人格を有し、常にヒトと環境への配慮を怠ることなく、将来、教育者、研究者、技術者および医療人として指導的役割を担う人材を育成する」ことにあります。

本教育目標を達成するため、高度な創薬・健康・環境科学の専門性のほかに、1) 関連分野の幅広い基礎知識、2) 広い視野、3) 問題発見・解決能力、4) 自己表現・コミュニケーション能力などが身に付くような教育プログラムとしています。

薬科学専攻博士前期課程（修士課程）では、創薬・健康・環境科学に関わる研究者、技術者としての倫理観、および国際化と情報化に対応できる英語力を体得することを期待して必修の基礎科目が設けられています。また、狭い領域の専門科目に偏らないよう、専門選択科目をA～D群の各分野に分類し、各分野から少なくとも1科目を選択し、幅広い学識を身につけられるようにしています。

博士後期課程では、主として創薬分野で自立して創造的研究活動を遂行するために必要な研究能力を養うことを目標として、学位論文作成に向けた実験を主体とする「薬科学特別研究」と共に、基礎選択科目として学習の継続性が必要である語学科目、また、創薬の基本3要素（探索・評価、合成及び薬物送達）に加えて、レギュラトリーサイエンスに関する高度な専門知識を体系的に修得できる専門選択科目が設けられています。

6年制薬学教育の大学院である薬学専攻博士課程では、将来、専門的職能を有する高度医療人たる薬剤師、専門薬剤師、薬学研究者として指導的役割を担うことを目標として、基礎科目、創薬及び医療薬学の専門科目が設けられています。専門科目の「医療薬学特別研究」においては、医療薬学研究を発展・体系化して、学位取得につなげるとともに研究者及び高度医療人たる薬剤師として自立するために必要な能力を涵養します。当該研究分野に関連する領域の学識及び基礎的研究技術の修得、医療現場における臨床的な課題の解決に向けた研究、これを支える

薬と疾病に関する基礎的研究、医薬品開発研究などに必要な科目も選択して受講できます。臨床研究の遂行能力を有し医療現場で高度医療人として活躍する薬剤師を目指すための科目も用意されています。基礎科目には、コミュニケーション能力の向上を目標とした語学科目の他、医薬品開発や医療に関わる知識、様々な最新情報を修得できる科目が配置されており、多角的な学習プログラムとなっています。

いずれの専攻においても、単なる専門家ではなく、「実践力を備え、即戦力となる研究者、技術者、教育者、高度医療人」として、社会的ニーズの高い、創薬・健康・環境科学・医療薬学の基礎研究、応用研究及び企画の分野での活躍を目指して研鑽されることを期待しています。

なお、巻末綴じ込みの「大学院講義についてのアンケート」は各科目終了後に実施して、学生諸君の率直な印象を講義に生かすために利用されます。諸君の希望や意見が反映されるようご協力ください。

